

燃料電池の取り組み

(実施期間：2002～)

技術テーマ区分番号： ⑭

主な実施場所： 本田技術研究所（埼玉県和光市）

取組活動の内容

事業目的・概要

- Hondaは、クルマ社会が抱える環境課題の解決策としていち早く「水素」に着目し、1980年代後半、燃料電池(FC)の基礎研究をスタート。2002年燃料電池自動車(FCX)を世界初の米国政府販売認定を取得し、日本と米国で発表。2008年、FCスタックを進化させたFCX クラリティを、2016年、クルマとしての実用性を進化させたクラリティ FUEL CELLを発表。その後も、さらなる環境性能の向上を目指し、開発を進めている。
- 2013年ゼネラルモーターズカンパニー(GM)とHondaは次世代燃料電池システムと水素貯蔵技術の共同開発を開始、2017年には両社による水素燃料電池システムの量産を行う合併会社(Fuel Cell System Manufacturing, LLC)の設立を発表。
- 2020年、いすゞ自動車株式会社の大型トラック開発技術とHondaのFC開発技術という長年培ったそれぞれの強みを生かし、FCパワートレインシステムや車両制御などの基礎技術基盤の構築を目指す共同研究契約を締結。
- 今後は、FCトラックや水素エネルギー活用が物流業界をはじめとした社会全体の産業の発展と水素社会の早期実現に貢献できるよう研究を進めていく。

- ### 連携実施者
- いすゞ自動車株式会社：FCパワートレイン、車両制御などの基礎技術基盤の構築を目指す共同研究
 - ゼネラルモーターズ：燃料電池システムと水素貯蔵技術の共同開発、生産

- ### 関連外部リンク先
- いすゞ自動車株式会社公式サイト[<https://www.isuzu.co.jp/index.html>]
 - Fuel Cell System Manufacturing, LLC公式サイト[<https://www.fcsmllc.com/product/public/us/en/fuelcell/Home.html>]

イメージ図



図1：Honda燃料電池車の歴史

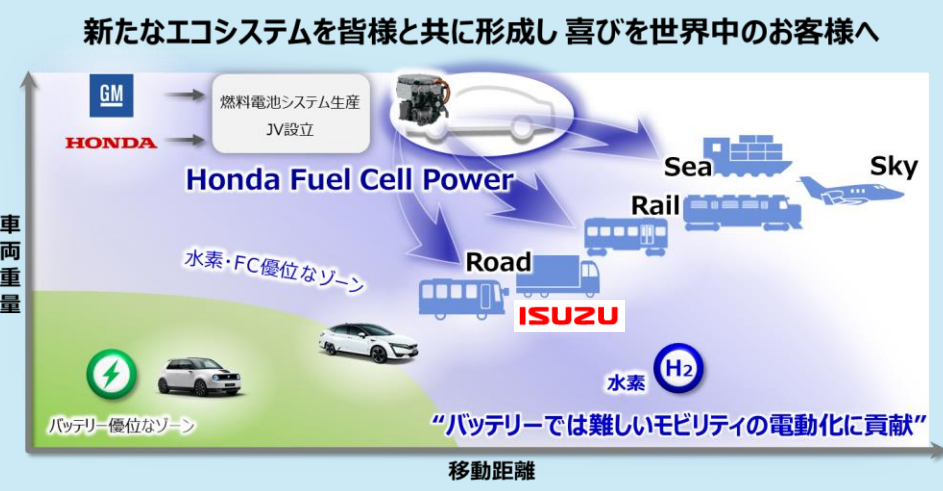


図2：Hondaが描く燃料電池技術の広がり